

2) ウイルス担当

平成 20 年度に実施した定期業務は、感染症発生動向調査事業に関わるウイルス検査，市民から依頼される HIV（エイズ）や風疹等の血清検査，および二枚貝のノロウイルス検査である．

各試験検査の検体数を表 5 に示した．

表 5 検体数総括

区分	計	行政検査 (保健所)	調査業務
総計	9,064	8,873	191
感染症発生動向調査事業ウイルス検査	191		191
HIV抗体検査	4,761	4,761	
クラミジア抗体検査	2,345	2,345	
風疹抗体検査	175	175	
B型肝炎検査	786	786	
C型肝炎検査	801	801	
二枚貝の ノロウイルス検査	5	5	

(1) 感染症発生動向調査事業ウイルス検査

感染症発生動向調査事業は，8 医療機関に 9 つの検体採取定点を指定して実施している．

平成 20 年度は表 6 のとおり患者 166 名分の 191 検体が搬入され，ウイルス分離を行った（詳細は資料に記載）．

表 6 感染症発生動向調査事業検体数の推移

年度	平成16	17	18	19	20
患者数	157	157	208	165	166
検体数	198	177	250	182	191

(2) HIV（エイズ）抗体検査

昭和 62 年 10 月以降，市民からの HIV（HIV-1，HIV-2）抗体検査依頼を保健所で受け付け，当所で検査を実施している．

平成 20 年度は 4,761 検体を実施し，このうちスクリーニング検査陽性の 8 検体については確認検査を行った結果，7 検体が陽性であり，残りの 1 検体は判定保留であった．

平成 16 年度からの年度別検体数の推移を表 7 に示した．

表 7 HIV 検体数の推移

年度	平成16	17	18	19	20
検体数	2,830	3,215	3,867	4,603	4,761
陽性数	3	6	11	14	7

(3) クラミジア抗体検査

平成 13 年 6 月から，市民のクラミジア抗体検査依頼を保健所で受け付け，当所で検査を実施している．

平成 20 年度は，2,345 検体を実施した（表 8）．また平成 16 年度からの年度別検体数の推移を表 9 に示した．

表 8 クラミジア検査状況

検体数	IgA抗体			IgG抗体		
	陽性	陰性	保留	陽性	陰性	保留
2,345	239 (10%)	2,025 (86%)	81 (3%)	344 (15%)	1,929 (82%)	72 (3%)

表 9 クラミジア検体数の推移

年度	平成16	17	18	19	20
検体数	2,453	2,818	1,814	2,265	2,345
IgA陽性数	200	288	167	245	239
IgA陽性率	8%	10%	9%	11%	10%
IgG陽性数	366	411	245	325	344
IgG陽性率	15%	15%	13%	14%	15%

(4) 風疹抗体検査

昭和 52 年度以降，妊娠適齢期女性を対象とした風疹抗体検査を保健所で受け付け，当所で検査を実施している．

平成 16 年度からの年度別検体数の推移を表 10 に示した．平成 20 年度の抗体陰性率は，表 11 に示すとおり，8.6%(15/175)であった．

表 10 風疹検体数の推移

年度	平成16	17	18	19	20
検体数	411	173	127	140	175
陰性率	15%	10%	12%	10%	9%

表 11 年齢群別風疹 HI 抗体価分布及び陰性率

年齢	HI 抗 体 価									陰性率 %
	<8	8	16	32	64	128	256	512	計	
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
20～24	3	0	1	4	2	1	2	0	13	23.1
25～29	5	1	8	15	20	8	5	0	62	8.1
30～34	4	3	10	18	16	6	6	1	64	6.3
35～39	0	3	3	8	3	3	1	2	23	0.0
40	2	1	1	4	1	3	0	0	12	16.7
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1	100.0
計	15	8	23	49	42	21	14	3	175	8.6

(5)B型およびC型肝炎検査

平成 15 年度より、B 型および C 型肝炎検査（HBs 抗原、HCV 抗体）を保健所で受け付け、当所で検査を実施している。

平成 20 年度は、B 型肝炎検査を 786 検体、C 型肝炎検査を 801 検体実施した（表 12）。

表 12 B 型および C 型肝炎検査状況

	検体数	陽性数	陰性数	陽性率
B型肝炎	786	15	771	1.9%
C型肝炎	801	12	789	1.5%

(6)二枚貝のノロウイルス検査

ノロウイルス食中毒予防対策の一環として、平成 20 年 5 月から平成 21 年 2 月にかけて二枚貝検体の収去検査を実施した。

5 検体の検査を実施し、どの検体からもノロウイルスが検出されなかった。

3) 感染症担当

感染症担当が平成 20 年度に実施した定期検査は腸内病原菌検査、結核菌検査、梅毒血清反応および原虫・寄生虫等であり、表 13 に検体数と項目数を示した。

表 13 定期検査検体数総括

業 務 名	検体数	延べ項目
腸 内 病 原 菌 検 査	2,270	6,810
結 核 菌 検 査	12	24
梅 毒 血 清 反 応	772	1,544
原 虫 ・ 寄 生 虫 等	65	65
計	3,119	8,443

(1) 腸内病原菌検査

腸内病原菌検査の検査件数は 2,270 件で、赤痢菌、サルモネラ（チフス・パラチフス含む）および腸管出血性大腸菌の 3 菌種について、それぞれ病原菌の検索を行った。検体は健康診断等の一般検便で保健所からの依頼によるものである。表 14 に依頼別検体数を示した。

菌種別の陽性件数は、赤痢菌、チフス・パラチフス菌、腸管出血性大腸菌がいずれも 0 件であり、サルモネラが 3 件（0.13 %）であった。

(2) 結核菌検査

結核菌検査は主に管理検診関連によるもので、市内の保健所から依頼があった 12 件について塗抹および培養検査を実施した。陽性は 2 件であった。

(3) 梅毒検査

梅毒血清反応は 772 件について実施した。検査方法は TPHA 法、RPR 法を同時に実施し、必要に応じて FTA-ABS 法を実施した。陽性は 30 件（3.89 %）であった。

(4) 原虫・寄生虫検査

原虫・寄生虫検査は、蟯虫卵 63 件、その他 2 件、計 65 件の依頼であった。

表 14 腸内病原菌検査依頼別検体数

区 分	計	東	博多	中央	南	城南	早良	西
検体数	2,270	394	210	645	299	238	267	217